



Kanami Nozawa

チューターってどんな人？
素顔に迫ってみました

のぞかみ
野澤 泉南 さん
理学研究科生命科学専攻
植物系統分類学研究室
博士前期課程1年

学生広報
チームが行く

Study+ Interview

チューター インタビュー

情報リテラシー実践のチューター業務を担当している野澤さんに、
チューターとしての活動や大学生活について聞いてみました。

Q.5 大学院では、どのようなことを勉強していますか？

A. 学部では、遺伝子・系統分類・細胞などの勉強をしていましたが、大学院では、植物の分類を研究しています。具体的には、植物の種の分かれ方、進化の過程をテーマに研究しています。研究室で論文を読むのはもちろんですが、緑地に向いて実際の植物を扱うこともあります。NHKの朝ドラ『らんまん』で万太郎さんが行っていたような研究です。先日、牧野標本館でスイカの標本を見て改めて感動しちやいました(笑)。

研究の息抜き方法は寝ることと食べること。最近はやラーメンにはまっています。すごく辛いのですが、それがいい気分転換になってとってもスリキリします。最近だんだんとやラーメンの辛さに慣れてきましたので、もう少し辛いものに挑戦しようと思っています！

Q.1 チューターの活動内容を教えてください。

A. 主に、パソコン開放教室の運営と授業補助の二つです。パソコン開放教室の運営では利用者がパソコン操作で困った時のサポートやプリンターの紙の補充をしています。授業補助では教室の鍵の管理や出欠確認の手伝い、そして学生の質問対応などの業務をしています。加えて、チューター同士ではVBAやITパスポートについての勉強会を開いています。

Q.2 質問への対応など学生のサポートをする際に工夫している点があれば教えてください。

A. 授業補助に入る「情報リテラシー実践」の内容はしっかり理解しておくようにしています。授業補助前にはコースウェアを確認し、自分の知識に自信がないところはチューターの有志が主催する勉強会に参加して準備しています。質問には答えられる範囲ですぐ答えますが、一緒に考えることもあります。機器的にわからないことがあれば学内のシステム管理室に電話して問い合わせることで解決しています。プレミアム・カレッジ生など大学生より年代が上の方の質問に対応することもあります。パソコンの操作が不得手な場合は、ひたすら丁寧に一つひとつ教えるように心掛けています。

Q.3 チューターになって変わったことはありますか？

A. チューターとして活動していく中でITへの抵抗感は少なくなりました。利用者や授業中の学生の質問に答えられた時や解決できた時は嬉しいです。知識が豊富で、質問によりわかりやすく答えられるようなチューターでありたいです。



Q.4 どんな人がチューターに向いていると思いますか？

A. チューターの活動は自分の時間割の空き時間に入れるので、研究や学業と両立しやすいです。勉強会もあるので、パソコン操作が得意ではなくてもITに興味があって学びたいと考えている人に向いていると思います。

編集後記

学生生活を送るにあたり、今しかない環境を全力で楽しむ大切さを実感しました！

いわぶち やすひる

岩淵 泰大 法学部 法学科 3年 (学生広報チーム)

たぐち あおい

田口 葵 人文社会学部 人文学科 2年 (学生広報チーム)

私もチューターとして活動しているため、大変刺激を受けました。自分が学んだことを人のために活かせるチューター活動にもっと誠実に向き合っていきたいです。

Q.6 学生生活で大事にしていることを教えてください。

A. かけがえのない今を楽しむことです。たとえば、キャンパス内の緑地に行って植物を研究することは、今の環境でしかできません。もちろん、学生生活も時には楽しくないことや辛いことがあります。私の場合は、修士論文のために先行研究の論文を読むのは非常に大変です。しかし、こういった大変なことも、今しか味わえない大切な経験です。自分に与えられた環境を全力で楽しむよう心掛けています。



研究対象のヒキオコシという花です！

Q.7 学部生へメッセージをお願いします！

A. 授業に積極的に参加して、しっかりと自分の学びにつなげて行くように意識してください。そして、自分の興味のあること、楽しそうなこと、挑戦してみたいことに積極的に取り組んでいきましょう。私自身も残りの1年間でやりたいことが沢山あります。一緒に学生生活を楽しんでいきましょう！

深い学びにつなげる [スタディプラス]

Study+ Vol.11

2024.SPRING

あなたの声で授業が変わる！



教員インタビュー

授業の工夫・改善レポート

結果報告！

全学共通科目の授業に関するアンケート

学生広報チームが行く

チューターインタビュー



教員インタビュー

授業の工夫・改善レポート



基礎科目群

全学部の学生に身に付けてもらいたい、「なぜ？」という視点。

おおさき としお
大貫 俊夫 准教授
(人文社会学部 人文学科)

基礎ゼミナール

歴史学が専門の大貫先生が担当する「基礎ゼミナール」。コロナ禍の高校時代を過ごしてきた1年生に対して、歴史の授業を通して「大学での学び方」の指導に取り組む大貫先生に、授業の狙いについて語っていただきました。

「基礎ゼミナール」はどのような授業でどのように進めていますか？

この授業は1年生の必修科目です。全学部の学生を対象に多くの先生が開講しており、学生はその中から学びたい授業を選択します。私の授業のテーマは専門でもある歴史学ですが、「今後は歴史を学ぶ機会もなかなかないから」という理由で受講した理系の学生もいました。学期の前半では歴史学の入門書でもある『1冊でわかる 歴史』(ジョン・H・アーノルド著)などを題材に、毎週課題とする章を全員が精読。そしてその章を担当する学生が要約を発表し、それについて皆で議論を行います。また後半では前半の成果を踏まえ、受講生各自が興味を持ったテーマ・書籍についてプレゼンテーションを行います。取り上げる書籍に制限はありません。前半では西洋史に関する書籍を題材にしましたが、江戸時代の農村における自治など、日本の歴史を取り上げた学生もいました。

大貫先生に
一問一答

Q 歴史学に興味を持った理由は？

A. 小学校時代の海外旅行経験が、西洋史に興味をもつきっかけになりました。

Q 学生時代はどんなことを勉強していましたか？

A. 1年次には歴史、ドイツ語、ラテン語を軸に、現代思想などにも興味を広げました。

Q どんな学生生活を送っていましたか？

A. 初めての一人暮らしで自由を満喫。オーケストラでチェロの演奏にも取り組みました。

Q 休日の過ごし方は？

A. チェロを弾いたり、家族とのんびり過ごしたりしています。

授業ではどのようなことに取り組み、どのような改善を行っていますか？

前半のテキスト講読では担当者にレジュメを作成してもらいますが、後半の興味を持ったテーマ・書籍に関する発表では、パワーポイントなどでのスライドに頼らず、ビジュアルのように自身の言葉と身振りだけでプレゼンテーションしてもらいます。近年は小学校からスライドを作成することが多いようですが、学問的な議論は根拠をとまった主張を戦わせることで生まれるもの。フォーマットに文言をはめ込むのではなく、この授業が自由な発想から自分の言葉を発するトレーニングになればと思っています。また、授業はオンラインやハイブリッドでは行わず、対面を基本としています。これは議論をする際や自分の意見を発表する際の、他者の反応や場の雰囲気を感じてほしいから。昨年は高校時代の大半がコロナ禍だったという受講生が多く、リアルなコミュニケーションに慣れていないと感じました。本年度も同様の形式で進める予定です。



授業を履修する学生に伝えたいメッセージはありますか？

高校までの暗記が中心の歴史も重要ですが、大学ではそこから一歩踏み込み、歴史の中の出来事に対して自ら解釈を行うという姿勢を身に付けてもらいたいですね。本を読みながら、常に「なぜだろう？」と問いかける3歳児以上の「なぜなぜ期」を楽しみ、同時にその疑問を議論へと発展させてほしい。特にこの授業はさまざまな学部の学生と一緒に学ぶ機会でもあり、自分とは異なる考えに触れることも少なくありません。多様な学生と意見を交わしながら考えをまとめていくという経験は、どのような専門分野に進むにしても、必要となるスキルです。1年次のこの授業でそうしたスキルを身に付け、自身の専門分野を掘り下げてほしいと思います。



2023
年度版

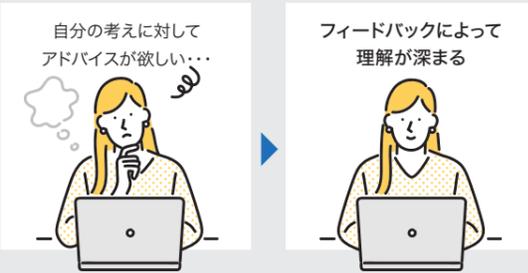
全学共通科目の 授業に関するアンケート 結果報告

このアンケートは、授業担当の先生と学生の皆さんを対象に実施しています。授業担当の先生には、学生の意見等を受けて行った授業改善の取り組みを回答いただき、学生の皆さんには、授業を受けて思ったことや気づいたことを回答いただいています。これらの回答結果を学内で把握・共有することで、本学の教育改善につなげています。ここでは、アンケート結果の一部について、簡単に紹介します。

学生の皆さんからの意見を元に **先生も工夫をしながら授業をしています!** ※1

1

フィードバック



基礎科目群
良質なリアクションペーパーの内容を履修者全員へ共有し、それについてフィードバックを行うことで、学生のモチベーションを向上させることに繋がった。

理系共通基礎科目
数学は演習問題などを多く解くことが重要となるので、kibaco を利用して学生に演習課題、解答例などを配布して、フィードバックに努めた。

教養科目群
プレゼンテーションの発表スライドを事前に提出してもらい、教員からのフィードバックを行ってから本番に臨むことで、完成度の高い発表にすることができた。

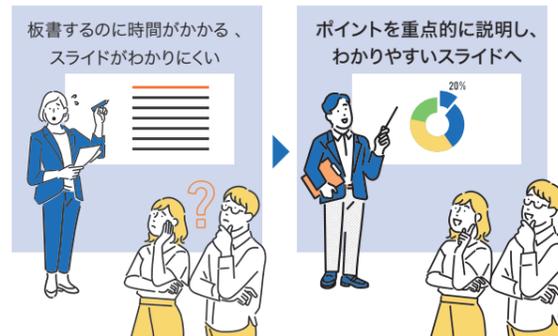
2

板書・スライド

情報科目
スライドおよび教材において、学生にとってわかりにくいと思われる点を噛み砕いたり、理解を助ける図やグラフを付け加えた。

理系共通基礎科目
板書をスライド活用に変更したことで授業時間に余裕ができ、演習時間を確保することで授業内容の理解の確認ができた。

未修言語科目
板書・スライドをOneNoteに統一し、課題をすべてkibacoで対応したことで一層効率よく学習ができるようになり、課題を忘れる学生も格段に減った。



3

授業の工夫



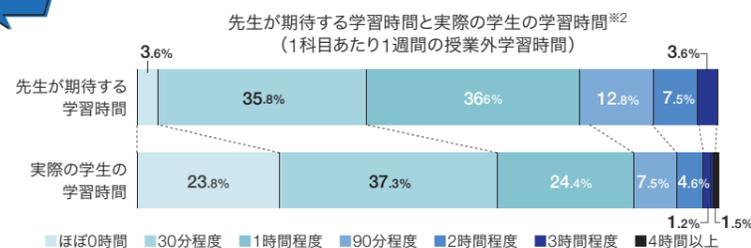
基礎ゼミナール
グループワーク、学生同士のディスカッションおよびピアレビューを取り入れたところ、学習に対するモチベーションを高める上で効果的だった。

基礎科目群
授業の終わりの5分間を質問タイムとし、その日のテーマでわかりにくかったものを一通り集めて、翌週の最初に説明した。

実践英語科目
kibacoを利用することで授業内課題への取り組みが可視化され、学生の理解度・習熟度が適宜把握しやすくなった。

授業時間以外の学習を見直してみましょう!

授業担当の先生と学生それぞれに、授業外での学習時間について聞きました。比較してみると、先生が期待している時間数と実際に学生の皆さんが学習した時間数に差があり、学習時間が不足していることがわかります。予習は授業の理解を助け、復習は授業で得た知識・技能を定着させます。与えられた課題に取り組むだけでなく、しっかり準備をし、より主体的に授業に臨んでみましょう!



※1・2・4 授業改善に関するアンケート 教員回答
前期▶授業科目数 345クラス 実施数 188クラス 実施率 54.5%
後期▶授業科目数 339クラス 実施数 226クラス 実施率 66.7%

※2・3 授業改善のためのアンケート 学生回答
前期▶履修登録数 20,818人 回答数 6,977人 回収率 33.5%
後期▶履修登録数 14,797人 回答数 4,169人 回収率 28.2%



学生に聞きました ※3 / 全学共通科目で身に付いた能力 ベスト3

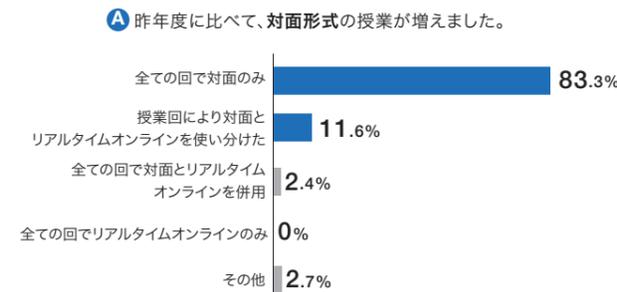
本学のディプロマ・ポリシーで定める9つの能力のうち、各科目において修得・向上できた能力を複数回答で聞いた結果を集計しました。



先生に聞きました ※4 / どのような授業をしていますか?

Q.1

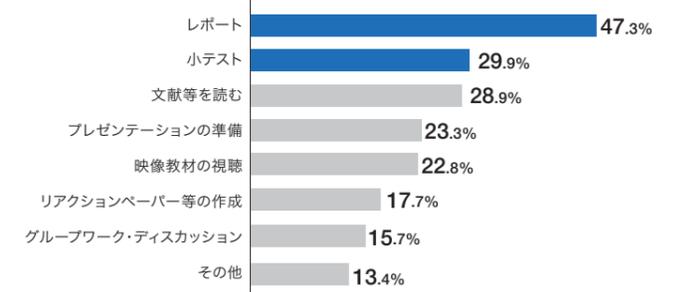
どのような形式で授業を実施しましたか?



Q.2

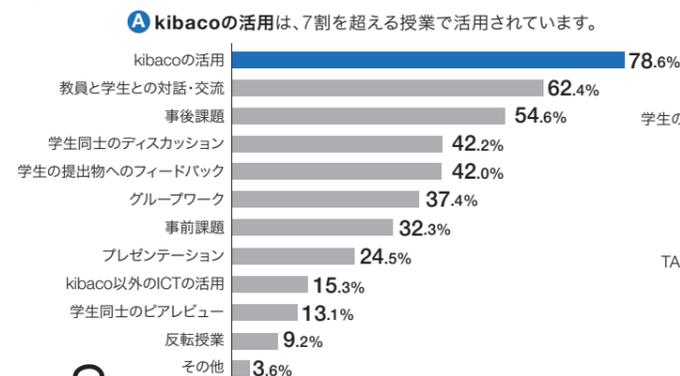
授業時間以外の学習として、どのような課題を課しましたか?

A 先生は小テストやレポートによって、学生の皆さんの知識を確認し、その定着を図っています。しっかりと取り組みましょう。



Q.3

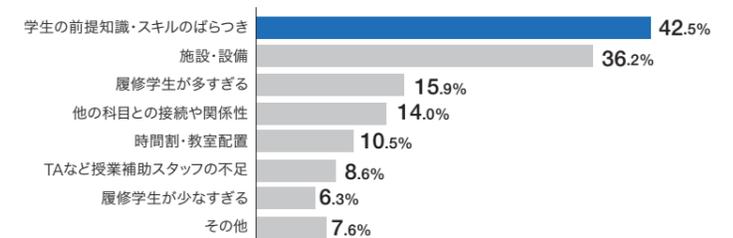
授業では以下の要素を取り入れていますか?



Q.4

授業を進めていく上で課題となっていることはありますか?

A 学生の前提知識やスキルのばらつきに課題を感じながらも、それぞれの学生が主体的に学べるよう励んでいます。



皆さんの学習環境についてお知らせします!

コンセント付き自習スペースのご案内(南大沢キャンパス)

6号館、9号館、12号館にコンセント付きの自習スペースを設けています。また、図書館でもコンセント付き閲覧席にて自習が可能です。座席に限りがありますので、譲り合ってください。

TMU Learning Studioで学習相談をおこなっています(南大沢キャンパス)

図書館1階コミュニケーションスペースに、TAが個別に対応する学習支援センターを設置しています。大学の学習で困ったこと、わからないことがあれば、予約不要で専門のTAに相談することができます。

